

## 12 キャンプファイヤー

### ☆活動の概要

キャンプファイヤーは、野外活動の中で最も印象に残るものであり、忘れられない思い出となります。したがって、その内容やねらいをどのように扱うかがポイントになります。また、より効果的にするためには、事前に準備しておくことがいくつかあります。

キャンプファイヤーは、最初の夜に実施する場合は、参加者の緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後の夜に実施する場合は、それまでの活動や日常生活をふり返る有効な場となるなど、その教育的意義は高いものです。しかし、指導者がそのねらいや教育的目的をはっきり意識せず、ただ単に火を囲んで騒ぐだけに終わってしまう例も多く見受けられます。もう一度キャンプファイヤーの意義や方法を考えてみましょう。

#### (1) ボンファイヤー（親睦の火）

ゲームや歌、踊りなど楽しい雰囲気で行います。

#### (2) キャンプファイヤー（儀式の火）

静粛で厳粛な雰囲気で行います。特に、開会時と閉会時は、儀式として行う場合が多く、営火長の言葉や参加者代表の言葉は、神聖な雰囲気の中でより効果的なものとなります。

### ☆ねらいとして考えられるもの

(1) 親睦を図る。

(2) グループワークのふり返りとして実施する。

(3) 話し合いの場として実施する。

※ いずれかに重点を絞り、それに応じた展開をしましょう。

### ☆場所

本館営火場（上・下）、太陽の家営火場、キャンプ場営火場（大・小）、海浜施設（砂浜）

※ 場所は団体の規模や当日の利用状況に応じて、自然の家で決定させていただきます。

### ☆季節

一年中

### ☆事前準備及び準備物

(1) ねらいの設定とそれに基づくプログラムの作成

(2) 引率者及び参加者の役割分担（必要に応じて練習）

(3) 当日の準備品及び会場設営（17:00までに済ませるのがよい）

#### ① 団体に準備するもの

ア キャンプファイヤー用薪（レストランで購入可 Aセット・Bセット・Cセットのサイズがある。灯油付）

イ 新聞紙 マッチ・ライター等

ウ ゲームやBMG等で使用するCDやカセットテープ

エ トーチ 軍手

オ 営火長等の衣装（必要に応じて）

② 自然の家で貸し出すことのできるもの

CDラジカセ ポータブルアンプ・マイク 延長コード 消火用バケツ等  
音楽ソフト（事前に確認してください）

(4) キャンプファイヤーの準備

本館営火場（上・下）の火床は、中央部に石で囲んであります。また、本館成果上（下）及び  
キャンプ場営火場（大）には、円形のファイヤー用架台があります。

① 火床の組み方

ア 井桁型

- ・ 多人数の場合によく組まれる火床で、人数や時間を考慮して組む。
- ・ 下段の薪が燃え残ることが多いので、適宜、営火長が火の調整をする。
- ・ 内部に薪を詰めすぎると燃え移らないことがあるので、小枝や新聞紙等を入れて工夫する。



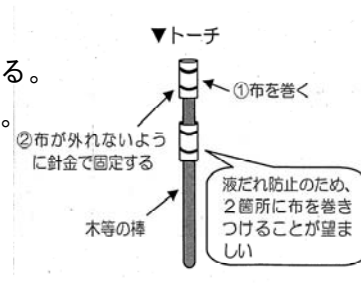
イ インディアン型

- ・ 少人数の場合によく組まれる火床で、簡単に組み、炎も高く上がり火の管理も宅である。
- ・ 内部に薪を詰めすぎると燃え移らないことがあるので、小枝や新聞紙等を入れて工夫する。



② トーチの作り方

- ア 長さ80cm、太さ3cm程度の枝木又は竹等を用意する。  
イ 布（古タオル）を10cmの幅におり、枝木の端に針金で固定する。  
ウ 液だれ防止のため、2箇所布を巻きつけることが望ましい。  
エ 灯油は、布の半分程度につける。（つけすぎないように）



## ☆引率者配置

営火長 子火 司会者 機器係 営火係 準備・後始末係 緊急・救護係 等

## ☆後始末

- (1) 水をかけて完全に消火する。
- (2) 燃えかすや灰は、翌朝9:00までに所定の灰捨て場へ運ぶ。
- (3) 借用物品を返却する。

## ☆指導上の留意点

- (1) 「野外活動だからファイヤーをしよう」といった安易な理由だけでキャンプファイヤーは実施しません。何のために、どのようなねらいでキャンプファイヤーを実施するのか、引率者全員の共通理解が必要です。
- (2) 引率者ばかり盛り上がりながらも楽しくありません。参加者主体のプログラムになるよう演出に工

夫が必要です。

- (3) 自然にやさしいファイヤーに心がけましょう。高熱を発する火や煙が周囲の動植物に悪影響を与えます。また、大勢で大声を上げたり、拡声器を使つての必要以上の指導などによる騒音は、動物たちへの大きなストレスとなります。
- (4) 火災ややけど防止のため、火の取り扱いには十分気をつけましょう。強風の時は、実施を見送みましょう。風速5mを目安とし、自然の家職員にご相談ください。
- (5) プログラムの進行に合わせて、火の勢いを調整しましょう。
- (6) 打ち上げ花火は禁止しています。それ以外でも花火をする際は、自然の家職員にお知らせください。
- (7) 21:00までには終了するような計画にしましょう。活動時間は、90分程度が理想的です。
- (8) 開始前と終了後には、無線機で事務室に連絡してください。

## ☆手順例

- (1) ねらい 参加者相互及び参加者と引率者の親睦を図る。
  - (2) グループ構成 2クラス（80名程度）
  - (3) 展開
    - ① 第1部 迎え火の式
      - ア 全員で歌（遠き山に日は落ちて）を歌っている中に、営火を迎える。
      - イ 親火が灯火を捧げる言葉を述べる。
      - ウ 親火が子火に呼びかけながら灯を分ける。
      - エ 営火長が点火の宣言をする。
      - オ 全員で歌（燃えろよ 燃えろ）を歌う。
      - カ 営火長が迎え火の言葉を述べる。
    - ② 第2部 交歓のつどい
      - ア はじめの部分は、気持ちや身体をほぐすような動作の入ったものや、スキンシップのあるゲームなどがよい。
      - イ 中程では参加者による出し物を中心に、歌やゲームなどを入れながら雰囲気盛り上げる。
      - ウ 全体の3分の2ほど進んだところで、最も盛り上がるようなダンスやゲームを持ってくる。
      - エ 終盤は気持ちを静めていく。
    - ③ 第3部 送り火の式
      - ア 親火は、ファイヤーの頂から灯を移し、その灯を子火に移す。
      - イ 美しい故郷をたたえ、全員で歌（ふるさと）を歌う。  
曲の間奏の部分で、送り火のことば（心に残る話や詩の朗読等）を話す。
      - ウ 営火長を先頭に親火、子火が退場する。
      - エ 参加者全員で歌（今日の日はさようなら）を歌う。
- ※ シナリオ例がありますので、自然の家職員にお尋ねください。



## 13 灯火のつどい（室内）

### ☆活動の概要

野外でのキャンプファイヤーの大きな炎のような雄大さはありませんが、キャンドルは人の心を洗うような澄んだ輝きがあります。この光は、厳粛で神聖な雰囲気をつくるには、キャンプファイヤー以上の効果があります。これまでの活動や日常生活を静かにふり返るよい機会となります。

また、屋内での実施であるため、気象条件に左右されることなく、声も通りやすいため、参加者の集中力を保ちやすいという利点があります。

さらに、キャンプファイヤーに比べて、設営の負担が極端に少ないことや全員に分火しやすいこと、危険が少ないこと、運営に係る準備が少ないこと等があげられます。

自然に対してもローインパクトであることも灯のつどいのよいところです。キャンプファイヤーの荒天時の代替プログラムにもなります。

### ☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 親睦を図る。
  - (2) グループワークのふり返りとして実施する。
  - (3) 話し合いの場として実施する。
- ※ いずれかに重点を絞り、それに応じた展開をしましょう。

### ☆場所

プレイホール コミュニティールーム クラフトA キャンプ場大広間 海浜観察室

※ 場所は団体の規模や当日の利用状況に応じて、自然の家で決定させていただきます。

### ☆季節

一年中

### ☆事前準備及び準備物

- (1) ねらいの設定とそれに基づくプログラムの作成
- (2) 引率者及び参加者の役割分担（必要に応じて練習）
- (3) 当日の準備品及び会場設営（17:00までに済ませるのがよい）
  - ① 団体に準備するもの
    - ア マッチ・ライター等
    - イ 参加者全員が持つろうそく（レストランで購入可）
    - ウ ゲームやBMG等で使用するCDやカセットテープ
    - エ 営火長等の衣装（必要に応じて）
  - ② 自然の家で貸し出すことのできるもの
    - ア セレモニー用燭台に設置するろうそく（大）
    - イ 参加者一人一人が手に持つ燭台
    - ウ CDラジカセ ポータブルアンプ・マイク 延長コード 音楽ソフト（事前に確認してください） 電子ピアノ
    - エ ブルーシート
- (4) セレモニー用燭台の準備
  - ① ブルーシートを中央に置き、その上にセレモニー用燭台を移動させる。
  - ② セレモニー用燭台にろうそくを取り付ける。
  - ③ 音響を準備し、簡単にリハーサルをする。

### ☆引率者配置

営火長 子火 司会者 機器係 準備・後始末係 緊急・救護係 等

## ☆後始末

- (1) 消火の確認をする。
- (2) セレモニー用燭台とブルーシートを片付ける。
- (3) 周辺を清掃し、会場を元の状態にもどす。
- (4) 借用物品を返却する。

## ☆指導上の留意点

- (1) 何のために、どのようなねらいで灯火のつどいを実施するのか、引率者全員の共通理解が必要です。
- (2) 引率者ばかり盛り上がりながらも楽しくありません。参加者主体のプログラムになるよう演出に工夫が必要です。だからといって、参加者に全てをゆだねたり、押しついたりしてもいけません。
- (3) 火災ややけど防止のため、火の取り扱いには十分気をつけましょう。
- (4) 他の活動をしている団体への配慮をしましょう。
- (5) 21:00までには終了するような計画にしましょう。活動時間は、90分程度が理想的です。
- (6) 終了後、ろうが床に落ちていないかを確認してください。

## ☆手順例

- (1) ねらい 参加者相互及び参加者と引率者の親睦を図る。
- (2) グループ構成 2クラス（80名程度）
- (3) 展開
  - ① 第1部 迎え火の式
    - ア 全員で歌（遠き山に日は落ちて）を歌っている中に、営火を迎える。
    - イ 親火が灯火を捧げる言葉を述べる。
    - ウ 親火が子火に呼びかけながら灯を分ける。
    - エ 子火は全員でセレモニー用燭台に、上の方から点火する。
    - オ 営火長が迎え火の言葉を述べる。
    - カ 分火する。（親火、子火は周りの友達に灯火を分ける。もらった人も隣に分火する。）
    - キ 呼びかけをする。（司会者）
    - ク 納火。
  - ② 第2部 交歓のつどい
    - ア はじめの部分は、気持ちや身体をほぐすような動作の入ったものや、スキンシップのあるゲームなどがよい。
    - イ 中程では参加者による出し物を中心に、歌やゲームなどを入れながら雰囲気盛り上げる。
    - ウ 全体の3分の2ほど進んだところで、最も盛り上がるようなダンスやゲームを持ってくる。
    - エ 終盤は気持ちを静めていく。
  - ③ 第3部 送り火の式
    - ア 親火と子火の人はセレモニー用燭台を会場の中心に置き、火をつけて準備する。
    - イ 納火（セレモニー用燭台の最上段の1本を残して下の方から静かに消す。）
    - ウ 営呼びかけをする。（司会者）
    - エ 参加者全員で歌（今日の日はさようなら）を歌う。
    - オ 納火。（親火が最後の1本を消す。）

※ シナリオ例がありますので、自然の家職員にお尋ねください。



## 1 4 星座観察

### ☆活動の概要

日常生活において星空を見上げる機会はどれくらいあるでしょうか。標高250mに位置する当所から眺める星空は、ひと味違うものがあります。専門的な知識は必要ありません，星座を見つけたり，星座と神話等を結びつけて話をする程度でもよいと思います。小学生には「夏の大三角形」や「さそり座」，冬は「オリオン座」の観察が簡単です。また，「月の観察」や「惑星探し」も難しくはありません。

荒天時は，パソコンを活用した映像で，模擬体験をすることもできます。

### ☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 星座や惑星，月を観察する活動をとおして，自然の美しさや地球の動きを体感する。
  - (2) 宇宙に関する興味・関心を高める。
- ※ 学校の教育活動と関連づけて活動することもできます。

### ☆場所

天文広場（本館2F外） つどいの広場 キャンプ場つどいの広場

※ 場所は団体の規模や当日の利用状況に応じて，自然の家で決定させていただきます。

### ☆季節

一年中 ※ 冬季は防寒具が必要

### ☆準備物

- (1) 参加者 懐中電灯（グループに1つでもよい）
- (2) 引率者 懐中電灯 資料等
- (3) 貸し出すもの 天体望遠鏡 星座早見盤 双眼鏡やフィールドスコープ

### ☆指導上の留意点

- (1) 物品の借用及び自然の家職員との打ち合わせを17:00までに行ってください。
- (2) 参加者の実態に応じた内容・時間を設定しましょう。
- (3) 指導可能な指導者と同じ数のグループをつくり，それぞれに活動した方が効果的です。
- (4) 当日の星空状況を事前に把握しておきましょう。（見える星座や惑星，月の状態）
- (5) 天体望遠鏡を使つての観察は，順番待ちがありますが，待つ時間も大切です。活動時間を考慮しておきましょう。
- (6) 単体望遠鏡や双眼鏡，星座早見盤の操作方法を指導してください。
- (7) 外部講師を依頼することも可能です。その際，講師料が発生しますのでご了承ください。
- (8) 荒天時の活動を準備しておきましょう。（天体に関する視聴覚教材，クラフト活動 等）
- (9) パソコンソフト（ステラナビゲーター）を活用する際は，事前に操作し慣れておくことが大切です。自然の家職員にご相談ください。

## ☆手順例

- (1) ねらい 星座観察をとおして、宇宙に関する興味関心を高める。
- (2) グループ構成 40名
- (3) 展開
  - ① 活動を確認し、天体望遠鏡等を準備する。
  - ② 星座や惑星構成などの話をする。
  - ③ 星座早見盤の使い方を説明し、今夜見える星座を調べる。
  - ④ 天文広場に出て、星座を観察する。
    - ・天体望遠鏡を使い、惑星や月を観察する。その際、視点がずれやすいので、天体望遠鏡には触れないようにする。また、観察している星が数分で天体望遠鏡の視野から移動していくので、指導者が調整する必要がある。調整の仕方を教えておいてもよい。
    - ・双眼鏡は手ぶれが生じやすいので適当ではないが、多数あるので多くの参加者に使用させることができる。
  - ⑤ 後片付けをする。
- (4) ふり返り・まとめ
  - ① 参加者に「気づき」や「感想」を発表させる。
  - ② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を日常生活と関連づけるなど、簡単なコメントを行う。

